





玄  
伏人  
漂流記





門九二  
號3162  
卷

水主作郡解詠

船頭

傳流  
四十九

水主

重助  
年不知

同

五右衛門

五

右三人  
兄寺  
中  
生

早稲田大學圖書館  
號32.2.8  
藏書



水主

虎右衛門

三十八

右の八幡歌  
中流の志也

カキ

万次郎

廿三

右の者今もあふふ子年高前十二年正月五日  
為漢事云云永念の依備うおあるの日は八日繩と云  
事なりて岳永南海にお七日の日にむり船の風浪  
八日繩桶三つ返流したるを二つ返え上へゆき船に  
漂いあふふを再し乾方へ流され川口横たふり  
打損し只流に任せて流る道に雨降く衣被者形  
患難志し十二日の着る方と云云蘇九所と云ふ海上

浮ぶを見る形取ると一回中ゆきはる浮心近き  
海ありと云心を付し海を見渡り果し  
一ツの海を見お事しては遠く船をあらはし  
る屏風をさるぬくにしては舟をあらはし  
さるぬくか平年所を目南に船を付し人止陸上  
是十三日四時の事なり  
右の船子臨み舟を破りかき働かぬと云ふ岩不元付たる  
後多流を海岸の形を云ふ名是あり其さぬと云ふ  
其増名あり右の船留あを云ふ舟をさるなり  
船なり又い生るはけしと云ふ名あり  
舟をさるは是雜依り漂ふの砂水桶三つ破り  
舟を推免岩より流るありと云ふ名あり其さぬと云ふ



かーりゆめ獲時多々切りて後小便をまじに海のくもて  
喝を清きこりて其時飲物お多しきも小便をておき  
かりしとてしむ

東向也

磯の岩穴有哉老の住所とて  
鳴の廻りま送年々あふふやアシカ等の取有聲  
あてし種類と平こして井者無く満ちたる水を飲  
大に力を得るあふふと云又差のとき物あり  
四月甲午の日に茶丸の命をうまをうまああり後思  
たは海客の取をて食をては茶丸の命をうまああり  
籬又も籬の肉を啄来るとしては思て居る一は肉ヲ  
と食事をと得るま

五月三日日ハ一日創く働るま中も守めハ病体  
ありしといふ病外たるを海客の取をて食をては  
是牙の病外なるはハ一日働るま中も守めハ病体

之ともとるお者くるえ云はは損健こーし

五月三日日ハ一日創く働るま中も守めハ病体  
ありしといふ病外たるを海客の取をて食をては  
是牙の病外なるはハ一日働るま中も守めハ病体

此大形も大東洋アメリカ国の籬船多し  
へルト云傳馬八艘積の取あり

洋中籬をて食をては海客の取をて食をては  
以て退きあり肉と骨との間もあつたとき物を大皮

周の油をて食をては海客の取をて食をては  
籬の油をて食をては海客の取をて食をては

籬の油をて食をては海客の取をて食をては  
籬の油をて食をては海客の取をて食をては



格下法免又悔燭のこも物に就也

一 其年の暮月うらつ国子と名解也

一 雨の日は曇りうらつたるめき世を冠り日新と云ふ  
あみたるは心なきはつたの後の所ありまよりクテお

いづる世をわしと云ふ。是れ梅短ムスヒノカ

一 盤日日本無難友のとき、形を成クテ、お其の好なり方神

ト云ふ。白粉のちのちを甲に

一 上戸の人々の好を移り其の常刀のこしと下共  
おつづく。無難友の好を移り

一 八つ国大サ大概四国位七宮もろく其盤は常は

玉の津と云ふ西洋國より移入津。日本大坂のことき

地多遊女所たのむる

一 件の録おけは。アメリカ國より移入の「クダクダ

ヨナシと云ふ。役人の移入録。亦一万余人一人をせしセト

云新子と名是よりアメリカ國中移入の住居あるは

地あり

一 万治帝のお四人を「父ツクナヨチの世活であるはたし

右を移すは。彼を元朱判と名を多通を名をわし

は玉のこもえは。はるス四人を平伏すりよく好て日本

人々を移す。はるス四人を平伏すりよく好て日本

一 四人は若者「クナタチヨチを名酒をおのふ事をおし

依り「クワタチヨチを名酒をおのふ事をおし

一 八つ國時依日あり九月のゆし。年申ラニヤ一牧

先しては

一 系乃事多クアメリカの教する月の七の日の日本のえの

のゆくおくる人をつれおふをいす。よきをこり世の成就



の教する其の日の七の天神を祭るなり也

一 食物を田草唐草等定食也其の中上食を妻なり  
米は福國を積まれば多かる小鯛の数の日  
災の日有る不災穢多かる日有る此の多かる  
漢子も不神也日有る玉海子のめきこの海才  
入ては多かる子母海老を多かる也

一 家者古きヤキ也一リアキ年一アキカよりキキを  
つ其時教して多かる板又とる多かる板圍の多かる  
は屋根を多かる多かる湊あり大石あり板のめ  
へゲル多かる多かる多かる此の時多かる戸板の多かる  
所に入て多かる多かる多かる此の時多かると多かる  
時を告る多かる多かる此の時多かる大蛇ヲ多かる  
キキ也

一 七宮一王あり王死する時棺お納土藏のめき也

祭りをなす此の時埋て忘申の意を忘る事

日本に同く一宮上格も棺を用い下ふ火葬あり

棺も日本製也似ての棺之の方別なり

一 備花見も三人を若お油作の目雁をなす

氣のよる終に病死すお草を多かる日本稲植

一 昔を多かる多かる植れ根を生け肥ふ

三人を多かる一有姓業を多かる

一 お三人の国のほく乞帰あり

人々多かる多かる多かる多かる多かる多かる

一 存多かる多かる多かる多かる多かる多かる

一 去る人多かる多かる多かる多かる多かる多かる

一 帰る日多かる多かる多かる多かる多かる多かる



一万名席事、アメリカ必死を以て、  
院のあきかぬ子、  
道とて礼書物買料、  
物の世話ある迄の事也、  
たる事、六月、  
西書利加國政大、  
王、  
四時あり、  
ハ、  
ホ、  
ア、  
新、  
るのり、

王、  
四時あり、  
ハ、  
ホ、  
ア、  
新、  
るのり、

性、  
又、  
文、  
子、  
人、  
美、  
娘、  
女、  
帰、  
妻、  
二、  
上、  
日、



夫婦は情に多き家内のおつりまゝの余國に教へし  
南アメリカ國邊境を以ての争を合戦ありしはアメリカ利益を以  
て戦申す次第鯨舟を以て近く見しり  
文武の藝者古盛之カ瘡の仕ひ方もある馬修竹す驢馬し  
下道は馬の日本のみき馬なる也

笑物陶墨の 物子湯の教をりし  
醫術は未だ尻を茶を王ががら醫術者と云ふは日本病を云ふ  
後には大鯨舟の瘡は瘡治桶子ありしを以て入し又出  
に俵を埋めしめて瘡を治すものと云ふは瘡の仕ひ方  
西洋程瘡何方も有るは瘡出しは瘡を垢除く瘡治  
ありしは人を取らざる事あり 物子程瘡ふたると云  
多難大鯨舟のめし 虎の形を師子の形し  
大木多し日本程を以て大杖之  
物子丹の形は彼を以て云ふ

万葉集のトイツヘルに従又獨るる鯨舟を以て世界を以  
て事し夜を以て日本沖の日本高船の達は二夕桶を以  
上陸の志ありしを以て日本高船の達は二夕桶を以  
あり鯨舟の二つを以て日本高船の達は二夕桶を以  
式付の氷海にありし舟の子思はれを以て氷海割  
を以て又氷山海中ありしは海中の鯨舟を以て強  
しふくしと云ふ也

天竺の中トヤカタラ星坊に上陸す星坊を以て  
この星坊を以て星坊と云ふは星坊を以て星坊を以  
星坊の星坊にありしを以て星坊を以て星坊を以  
人死すは星坊にありしを以て星坊を以て星坊を以  
易し  
式時諸國を以てハツと上陸の志は虎の形を以て三人達留す



の約を破り再びアメリカへ歸る際其の節制せしむる  
六年あり之世時傳病亡名實ハ五リ来り歸国して未漢  
一舟がまの節あり

乃次高事 歸国の約を破せし金山に於て合戦極く地温多あり  
夫一南アメリカの金山に於て合戦極く地温多あり  
合戦自他温多あり手勢あり多物多あり一合戦  
えはすい力の人心極くの中、唯乞して再び金山に於て  
下ケヤニ人えはすい、琉球と云ふ名を造りアメリカ島  
付鹿名馬つし何事歸国して破る文通不  
東名馬つし何事歸国して破る文通不  
美との存を乞ふ、つこめふと云  
乃次高事アメリカに在り時フイウハル殊に外寵を以て子文書

結切ありし、唯い、性多し家相續の心所と云ふ、姫ヲ源  
致させ、舟に乗り、乃次高事、川に上り、又妻と云ふ、  
女ヲ志す、傳あり、しるす、止り、歸る、心切なり、  
ハフ玉お帆、この節、あめ、文、徳、新、意、よ、り、と、一、下  
の情、を、た、神、ち、り

ハフ國々、権あり、ある、道、有、大、又、ハ、琉、球、を、世、貫、多、る、送、呈、を、持、三、  
を、小、長、指、有、り、世、外、を、つ、つ、鏡、世、外、の、名、七、段、  
アメリカに在り、堀、く、る、金、物、取、教、十、卷、日、記、ア、メ、リ、カ、を、書、付、教、  
通、地、理、を、述、ぶ、大、又、ハ、琉、球、を、世、貫、多、る、送、呈、を、持、三、  
市、に、は、は、は、く、る、南、洋、を、世、外、の、名、七、段、  
ア、ヘ、ン、相、多、が、コ、コ、ハ、つ、け、り、多、く、は、は、は、く、る、南、洋、を、世、外、の、名、七、段、  
ハフ玉、アメリカ、も、味、方、多、く、は、は、は、く、る、南、洋、を、世、外、の、名、七、段、  
琉、球、を、世、外、の、名、七、段、



日中の姿となり

一 長崎より揚屋入り揚屋と申せとも寛なる事三日

一 浄海に渡り渡の敷山未見け此今次才日中後を以て  
なり

一 アメリカ國日本待哥の敷立又道中より唱歌を誦す  
其文を利解せし道に向ふ山原より云く一と見ふ人々の  
こころしるる同するを洞を換て

一 八ノ國日本持刀を以て首取切り一申傳書の云く  
と祿する由なり

一 友人の書り見るる二年刻、竟る函室にた極る者以て  
流重のし指海よりなり

一 研るに能く人ハア流を以て字佐浦人ガ子く陽を  
して本時を以て流を以てなり

一 以て浦原と流を以てなり軍舟を以てなり

一 一スル船なり子細日中地測り量つて申又を船舳杯流の  
お水薪のあつて洋人其の敷なり一其の字も、あはれ、

一 人質の事もあつて申合名に如日中人海の外證たる事  
あきと申す由一稱り申すを証する物と云はれしを  
にたるの事なり只今云ふ事、他邦を何れ巧みなる

一 彼國ヲイギリス人が、指所ありるの地と云

一 アメリカ國王の指し申す地を以て大名其方城なりと云

一 教多しなり

一 彼王府より大なる院を以て教する中其院映りて堂  
を見たりなり

一 官人より性来権威を以て杯ありなり



人ふいと下衣類のをしを分別す  
氏百姓を官次を以て用す

アメリカ國今や中一開くを以てるは子術事、精くありし  
船中、を以てはる矣、入舟の何る也、事と云ふは、知る  
しあり

方以てや換するは、是、又、を、極、意、送、る、大、の、政、多  
一、是、は、船、中、に、在、る、者、を、以、て、用、す

一、若、宅、破、り、の、障、子、を、入、又、及、ぬ、は、う、こ、や、を、用、す  
一、う、こ、や、織、ま、い、車、は、は、を、ケ、テ、計、三、年、の、毛、織、物、を、以、て、用、す

一、引、ま、せ、る、車、は、は、を、の、後、つ、り、し、て、人、が、以、て、用、す  
一、万、以、て、ア、メ、リ、カ、を、以、て、十、ヨ、リ、コ、ン、ト、云、は、人、へ、シ、タ、カ、コ、ン、ト

一、呼、メ、ヘ、シ、タ、日、本、を、以、て、云、は、一  
一、蘭、の、先、生、と、云、ま、事、は、メ、グ、ケ、ト、メ、ル、ト、云、  
一、ク、ニ、坊、耳、鼻、は、は、は、入、る

一、傳、藏、之、名、馬、ハ、コ、玉、と、日、本、の、名、改、ス、は、は、は、名、等

一、至、ト、云、今、彼、由、人、事、事、と、云、ま、事、は、は、は、  
一、借、着、改

一、ハ、コ、明、の、人、ア、メ、リ、カ、を、以、て、呼、び、し、て、メ、リ、コ、ヤ、ト、云、  
一、諸、道、具、禱、の、類、解、連、杯、禱、る、物、子、多、ク、ハ、キ、ノ、實、を、以、て、

一、教、格、の、之、の、を、用、す

癸丑著者

寫之

蘭立丁書藏







